

## 座談会\_札幌市

2023.11.2 19:00 - 45mins

**Aさん**

すごいなと思いました。うん。うん。自分が大学生のときに、こういった作品を作るなんていうことは全くできなかったと思うので、あの大学もこういう大学ではなかったせいもあるんですけど、いや皆さん方ってすごいなと思って、はい、改めて拝見させていただきました。

**鹿内**

どうでした**Bさん**。

**Bさん**

私も同じで、いや、すごいですよね。やっぱりね、撮影から何か友人から編集から音楽とかすごいなと思って完結とかまで

**鹿内**

**Cさん**はどうですか

**Cさん**

めっちゃめっちゃ申し訳ないんですけど、ちょっと1回見ただけじゃちょっとなかなかわかんなかったっていうのは。いろんなうわさ話をしてたけど、ちょっとその内容があまり入ってこなかったし、クラス会の人たちが、アカゲラ町の人たちなのかなんなのかちょっとわかんなくなってたから…。まあ見てたんだけど、多分そのこういう環境に自分が住んでたところパリティなんかのところっていうのは多分このパンフレットがあったので雰囲気はちょっと解ったのかなって。でも短い期間でインスタのストーリーでいろいろ上がってた感じのそのスケジュールで良いと思いました。

**鹿内**

**Dさん**はどうですか。

**Dさん**

すごいなって思ったし、私はこの学校、大学のこと知ってるし、大島先生出てるなどかそういうところには。そう、ちょっとなんか人集め、すごく映画製造するのに大変だと思うからなんか根気強くやったのかな、っていう感じがひしひしと伝わってきました。

**鹿内**

ありがとうございます。なんかここが気になったなみたいなのとかってありますか。

**Aさん**

そういえば、僕全然皆さんに自己紹介もしてなくてですね。

**鹿内**

確かにそれ必要ですね。

**Aさん**

あの一、見たことないと思うんですけど、事務局の総務課ってところで働いてます、Aと申します。あのチラシいただいて、うちの課まで来てくださったのではない。なかなかこういう機会ないのちょっと参加させていただいたら面白そうだなと思って、すみませんこんなおじさん参加させてもらって。で、先ほどもおっしゃってたんですけどやっぱり友達との会話のシーンが一番中心というか、濃いところだなと思って。確かに結構展開が早かったのも、一生懸命理解しようとしていたところはあったんですけども、でも、あそこのシーンが一番肝なんだろうなと思って、拝見していました。

**鹿内**

ですね。いやそうですね。なんか私も、これ伝わるのかなって思いながら、やってましたね。確かに。**Bさん**はどうでした。

**Bさん**

私も自己紹介をしますと…。八百カフェの地域の代表でお世話になっております。自分あの常盤に住んで、昭和63年くらいからいるので、結構長いと思うんですね。やっぱりあの、タイトルが壁のない街だから、やっぱりそういう意味で、友達同士で結構言わなくてもいいのかなと思うような傷つくんじゃないかなってちょっと心配した部分もあったんですね。記憶がないのにな、どんどんどんどんと言ってね、聞いてた部分はあったんですけどあれが、逆に言うとみんなの優しさってというか、記憶を呼び戻してあげようって思ってるのかなとか思いながらも見ていったんですが。

**Eさん**

今のお話を聞いて、私はあのシーンはすごい、うって感じで、もうすごく忘れたんですけど、何か学校の閉鎖された中のコミュニティのぐちゃぐちゃした感じみたいなのが、そっちの方にすぐ気が行っちゃって、なんかそれ優しさだったのかって思って、何か実家に久しぶりに帰ったりすると何かいろいろ聞かれますけど、だからそういうのもそういう種類の優しさなのかもって思いました。

**Dさん**

私も石垣島に知り合いがいるんだけど、その人はもう大体なんかもう、友達がもう小中高の同級生みたいな。もう小学生から知ってる人とかがもういっぱいって感じだし、もう何か一緒に飲みに行ったりしても、大体スナックに同級生がいたとか、同級生のお母さんがいたとか、そういう現場に私も見てたから、石垣島に住んでるとそういう感じな

んだなってというのは何となく思ってたから。だからリアルだなってちょっと思いました。

#### 鹿内

なるほど、なんだろうな、確かに。

#### Eさん

いい意味で印象に残ったシーンとかだったら、お母さんとつばめちゃんのご飯のシーンとか何かそういうとこ、なんだろう。お母さんとつばめちゃん2人だけのシーンはすごいなんか、なんていうか、つばめちゃんのことやっぱわかっているからの優しさがすごい感じられて、なんかよかったです。その2人だけのシーン、空気がすごい。

#### 鹿内

なんかそれは個人的にちょっと他の街の人たちとお母さんっていうのは変えたいなって思ってた。やっぱつばめちゃんが入院してたのは、何か都市、ハヤブサ市っていう都市の大きい病院だったので、やっぱり地元の友達とか、あとちょっと地元で関係してる人って別にわざわざそこまで会いに行かないじゃないですか。だからつばめちゃんがこう、アカゲラに戻ってきて、はい対面って感じなんで。そこのちょっと。もう既に記憶をなくしたつばめちゃんとある程度接しているお母さんと、他の人たちは、意識的に変えてみました。

なんか、自分皆さんのお話を聞きたいんですけど、自分が、このアンケートにあったんですけど、気づいたら自分が知らない、あんまり自分を知らない人に自分のことを知られていた経験ってありますか。

#### Aさん

うん。ありますね。学生時代の方が多かった印象がありますね。例えば中学校のときに部活やってたりすると、全然知らない他の中学の人たちに声かけられたりすることもありますし、何でそんなこと知ってるのっていうぐらい。なんなんでしょうねあれね。しかも全然違う。うん。部活の子たちからも声かけられたりしたこともありますしまあそういうことはやっぱり狭い世界だからこそ、逆にこう濃い情報として伝わりやすいのかなと思いますね。もう社会人になってからだと、ある程度薄っぺらい情報は確かに皆さん当然あのどういうところに勤めててどういう仕事しててっていうのはわかるんですけど、そんな細かい個人情報的なことまでは伝わらないので、まあ、わかっててもあえて言わなかったりすることはあるのかなとは思いますがね。なのでやっぱり学生の方がいろいろそういう経験もあったな。

#### 鹿内

なんかその学生時代の、なんか知られてた個人情報ってどういう感じに…。

**Aさん**

そこまであんまり覚えてないけれども、うん。なんでっていうようなことはやっぱりありますよね。

**鹿内**

別に部活には関係ないのにな、みたいなの。

**Aさん**

そうですねきっと友達の友達の友達ぐらいだったと思います。はい。

**鹿内**

**Bさん**とか常盤とかであったりします？

**Bさん**

私はまちづくりセンターに長く勤めてたんで、あそこの中にいると、皆さん多数ですけど、こっちは向こうから見ると、1人2人3人でどっか買い物行ったときとかも、あら**Bさん**とか言ってもらったり、そういう意味での知ってるっていう感じですね。あんまりこう中身までじゃなくて、そこにいたでしょっていう話の程度と。あとはもう、福祉とかにやっているとねこの地域でも、あの、小さいじゃん、町内会って。あるんですよ。世帯数がすごく少ない。そうすると、福祉もそういうねいろんな組織にあるんだけど、そういうところなんかに入らなくても、自分たちのことは自分たちの何て言うのかな、みんなが家族みたいで、うん、この映画のその縮小版どっちもあるような、大きいところと。誰が何してるか全然わからないんですよ。特に国道を挟んで川と山なんで細長い地域でね。そうすると、全然わからないけど、ちょっと山の端の方の空沼とか滝野とかっていうと、みんなそこでなんていうのかな、若い家族だのおばちゃん具合悪いよとかそんな話はすぐ伝わって、誰が病院行ったとかどっか誰か嫁に行ったとかいい嫁が来たとか何だとかって話がね、ものすごく伝わってそういうのはやはりこっちまで入ってくるんですよ。うん。そういう面でね、いろんな人の話の伝わり方っていうのはあるし、やっぱり地域で安心して住みたいなと思ったら、どっちがいいのかなっていうのをやっぱり思いますね。

**鹿内**

なんか、**Bさん**常盤に住む前って、結構都会でしたか。

**Bさん**

東京から来ました。で、それで良さがすごくあったんですよ。

**鹿内**

常盤の？

**Bさん**

でもう帰りたくないなと思って、うん主人に転勤で来たんですけど、もう戻らなかつ

た。家建ててね。だからほんとにいいとこなのにみんなそういういいこと言うけど、やっぱ傷つかない部分だなんていうあるし、でもそういうとこ大事にしていきたいね。皆さん昔から開拓した人たちも頑張っているわけだから、そういう人たちと仲良くやるその付き合い方っていうのも一つこれから学ばなきゃなっていうのもこれからありますね。

鹿内

Dさんは？

Dさん

私は正直なんか全然知らない人に知られてたなっていう経験がぱっと思いつかなくて、なんか、しいて言うなら、SNSで早く全然知らない人にフォローされたくらい。でもなんかSCUとかって書いてあったら、一応フォローし返したりするけど、でも内心だれだろうなっていう人がほとんどなことが多いストーリーのCloseFriendみたいな。あるじゃん。

カメラマン（ゼミ生）

親しい友達じゃない？英語で親しい。

Dさん

親しい友達のやつとかもなんか全然知らない子だけど、なんか設定されてるなどかっていうのもたまにあったりする。これは何でかなっていうことはあるなどは思うけど。

鹿内

公開制限の中になぜ自分が入られているのかってことね。

Dさん

知らないけどなっていう。それくらいかな。

鹿内

確かにうん、あるかも。Cさんは、なんかありますか。そういう知られてたことは。

Cさん

結構最近の悩みで、もう既にそういう知らない、話しかけてくれるけど、私は知らない。向こうは知ってるけど、っていうのを、そのさっき言ったみたく、ちょっと田舎の地元が、私今札幌に住んでるけど。地元ではその地域の人で、小学校の運動会と一緒に地域のか、なんか結構そういう集まるタイミングが結構あって。ゴミ拾いとか。そういうのに出たときに、結構声をかけてくれる。この間は盆踊りで仮装したときに、すごいねって、みんな声かけてくれて、Cちゃんすごいねって言ってくれるんですけど、全員知らない。なんか何回かやっぱり会うから、なんかこの人は小学校のPTAの人だなんていうのがわかったりするけど、本当に知らない人もなかにはいる。

鹿内

それはなんでCさんは知られてるんですか？

Cさん

それは。うちがあのか建設って会社やってるし、ずっとなんか、長くいたっていうのもあるし、おじいちゃんが町内会長をしばらくやって、みたいなのもあって、普通にその、町内の中での繋がり、おじいちゃんおばあちゃんたち、自分が赤ちゃんのときに抱っこしたっていう。大きくなったね。みたいなおばあちゃんがいたり、あとは町内会長のお孫さんだねっていうふうに、町内じゃない人から認識されてたり。あとは今も小学校全然被ってないんで、もちろん親も子供を知らないけど、やっぱりお父さんがまだその小学校のいろんな行事を手伝ったりしてるからCさんっていうのはみんなPTAの人たち知ってて、で、何かその子供みたいなの、認識で知られてるって感じ。

鹿内

めっちゃ私と同じ立場ですね。私もこの映画の上映会、今度仁木でもやるんですけど。私の地元の仁木町でもやるんですけど、宣伝でこの間仁木町文化祭でチラシを配りつつ、ちょっとなんかキャンペーンみたいなのをしたんですよ。そしたらなんか、私も誰かわかんないけど話しかけられる。あ、ひかるちゃん！みたいなの。いつもお世話になっております。誰かな～来てねっていう言ってたんで、めっちゃわかります。うんなんかその学生時代とかに街じゃなくて学校はどんな感じでした。

Cさん

でも、私が行ってた中学校は、私の小学校からは3人で他の学校から50人とか60人ずつ加わってきて、やっぱり私のことを知らない人が圧倒的に多いから、他のクラスの人っていうのは良かったし、あと結構成績良くて、何か賞取ったりとかしてたんで、それでなんか向こうが一方的に結構よく知ってて、全然知らないけど、向こうはちゃんと名前も知ってるみたいなの。あの人誰って後で聞くっていう。

鹿内

あーたしかに。なるほど。どうしたらいいですか先生。これですね。あとは自分のことをその話すことに対しての抵抗感なんですけど、結構話せますか。

Aさん

話すようになりましたね。うん。話題のきっかけ作りにどうしてもなりやすいので、自分のことを話すと、向こうも心を開いてくれるとか同じように話してくれたりするので、うんそういうやり取りをする中で特に社会に出てからははい。話のきっかけにすることで関係作ってくっていうようなことは多くなりましたね。で、逆に思い出してみると、皆さんぐらいのときとか、もっと若い頃は、なるべく話したくなかった。

鹿内

なんでですか？

**Aさん**

うん。それもやっぱりさっきの皆さんの話にも通じるんですけど、親たちって結構そういうネットワークがあって、いろんな子供のこととか、あのこっちの許可もなく勝手に喋るわけですね。それがものすごくやっぱり嫌で。なんでそんなことまで喋るのってというようなことが結構あったこともあって、そういうのの逆で、自分はある程度話したくないなって思ってた時代がありました。

あと、アンケートにも書いたんですけど、相手次第なところもあって、やっぱり話しやすい人とか、気が合う人とか、この人信頼できるなっていうその度合いによって全然、話す内容とか深さも変わってくるので、そういったところは徐々に分類されてきてるかなとは思います。

**鹿内**

その話しやすい人っていうのはどういう。話しにくい人との違いってどういうところなんですか。

**Bさん**

価値観似てる人だったりですかね。

**鹿内**

なんか年齢とか性別とかあんま関係なくてって感じですか。

**Aさん**

そうですねあんまり関係ないかもしれませんね。

**鹿内**

**Bさん**はどうですか。

**Bさん**

価値観同じ人とは話が弾むし、必要なことはやっぱり、相談したりとかやっていくんですけどやっぱりその中で、なるべく聞くように努力はしてるんですけど。話すよりも聞く方って意見を聞き出さないとって言うと、何かそれに偏っちゃうとっていうのがあるので、なるべく聞くようにして、っていうことによって勤めてるんですけど。やっぱり最近難しいなと思ったのは、あのご主人が亡くなった方とか、そういう人と会話するときっていうのがすごく最近難しいなって思って。軽くしても変だし、でもあんまりね、ご主人の人も知ってる方なので、そういうときにね、その話題をしていいのか、ある意味最近困ってるんですけどね。

**鹿内**

**Dさん**は？

**Dさん**

私はもう基本、自分のことを話さないかな。やっぱりもうまず友達が少ないから、その少ない友達には大体全部言うことが多いけど逆に自分が友達って思っていない人には本当に表面的なことしか話さない傾向があるから。

**鹿内**

何かその友達になるならないの違いは、なんかあるの？

**Dさん**

友達なんか自分が本当に友達になりたいって思ったとき、本当に友達になりたいなって思ったときと、あと2人、その人と2人でどっか行けるってなったらもう友達ってなるから、自分的に。

**鹿内**

**Cさん**は、何か自分のことを話すことに対してはどうですか。

**Cさん**

私も全然話したくないタイプで。いろいろ話したことによるプレッシャーみたいなのが生まれそうっていうのが…。もともと性格的なことだと思うけど。例えばどこ高校受験するのとか、ていう話も自分からも全然話したくないし、でも、誰と話してるかって言ったらむしろ、話しやすい人っていうのもあるけど、割と何か多重人格じゃないですけど、家での顔、学校での顔があって。話せる内容もたちによって違う。この人とはこういう話をしてみたいな全部合わせたら、全部自分のこと話してるんだけど、誰か1人に対してみたら、全然自分のことは100のうち10くらい。最近はでもだいぶ人格が減ってきたかなっていう。

**鹿内**

なんか私それでいうと、札幌で暮らし始めてから人格増えました。逆に、はい。幼かったのもあるかもしれないんですけど、地元で過ごしてたときが。なんだろう、敬語は使えるけど、大人に対しても敬語を使わない子みたいなものっているじゃないですか。なんかそういう感じでもう、ハツラツに明るいひかるちゃん。どこで友達と接してるときも、近所の人とか、お父さんの同僚とかと話してるときでも常に同じだったんですけど、なんか札幌に来てからは一、結構違うような気がします、なぜかわかんないですけど、何か逆だなって思って。聞いてます。その人格が減ってきたなと思うのはどうしてですか？

**Cさん**

さっき言ったプレッシャーを感じるみたいな部分が減ってきたり、羞恥心じゃないけど、そういうのを年取っていったらなくなったっていう。

**鹿内**

結構大人になると羞恥心が減るんですか。



**Eさん**

なんかなんだろう。Cさんが言った感じの中高時代がわかりすぎて、なんかめっちゃいろいろ思い出して、なんか話し方を覚えるみたい。なんか、いろんな人が話す内容とかはLINEでもその人の話し方に合わせた言葉だけになっちゃうんですよ。なんかその人が話すことを知ってるから、この人にはこういう内容を話すっていう脳みそにも合った時点でなっちゃうから、でも。そういう人を増やせば別にいいやっていうことになってきた。逆に。だから何か、何か少ない人にいっぱい話せるようになりたいみたいに思って、逆になんか変な合わせ、その相手に合わせてない、多重人格みたいな感じだったけどなんかそうじゃなくって、その相手の空気感に自分が普通にもう合わせちゃうってことを受け入れて、合わせたことをもうそれでやってほっといて、話したい内容だけこの人に話せないなと思ったら話せそうな人を探せばいいやん。って。なんかそういう意味で羞恥心が減ってきて、結構なんか、だから突然初対面になった人でも、話せるってと思ったら、なんか急に2時間ぐらい自分のめっちゃ深い話をして、何かそれでいいやみたいな感じには羞恥心減ってきたかも。ちょっと違うかもしれませんけど。

**鹿内**

でもあれなんですかね。大人になるとやっぱ付き合う人が増えるじゃないですか蓄積されていくっていう感じだと思うんですけど。だから何かこの人には話せるなっていうことが増えていくから、話せる内容も、増えるんですかね。

**Eさん**

私は多分なんか大人になると、学校にいるときより、何かこれが一応、正規のルールだみたいな全くなくなるんで。なんかもう何でもOKっていうか、もう生きてるだけですよっていう感じになってきてるんですけども、それぞれバックグラウンドが違いすぎるし、やってることの考え方も、立場も違うし。だから逆に何か蓄積がすごいなくても、そのバックグラウンドのどっかにすごい共鳴する部分があったら、もう急に入れちゃう、そういう感じかもしれない。

**鹿内**

何か価値観だけじゃなくて、そういう今まで生きてきた人生の背景の共通点とかを感じると。

**Eさん**

多分その部分のことしか話されるかも知れない。けど、でもそれで楽になったりできるようになるかもしれないっていう。

**鹿内**

じゃあ、逆に人のことを話すことってありますか。

**Aさん**

ありますね。

**鹿内**

どんなことを話します。

**Aさん**

やっぱり会社の人間関係だったりが多いので、そういう話が多くなっちゃうかな、とは思いますがね。まあ、学校が会社に置き換わるような感じはやっぱりどうしてもありますね。

**鹿内**

職場でも、未だに何かあの人結婚するんだよみたいな話ってありますか。

**Aさん**

あ、ありますよ。

**鹿内**

そうなんですね。なんか最近厳しくなってきたじゃないですか。ハラスメント系が。でも割と、それをハラスメントとするのか、コミュニケーションとするのかが結構難しいなって思ってるんですよ。

**Aさん**

ハラスメントって、どっちかっていうと、その人が嫌だって感じるものがハラスメントだと思っているので。そういうふうにならないような会話であれば、他人のことは話すことあると思うんですけど、うん。噂話的な話からこうだんだん悪意を持ち始めるとやっぱりそれはやりすぎだなとは思っているので、そういったところは気をつけるようにはしていますね。

**鹿内**

**Bさん**は、どうですか。雑な振り方してすいません。下手くそですいません。

**Bさん**

ちょっと違うかもわかんないけど、人と接するっていう面でね。町内会なんか活動していると、うん。やっぱりあの、結構2パターンにわかれるような気がするんですよ、割とあまり関わらずに距離を置いてこの辺にいてお仕事する人と街のこと。それ、それとか、あと昔とった杵柄、昔の職業をいつまでも持っている方とか。だから、例えばすごい固いね、警察のね、なんかってやってた方はね、ボランティアの世界だからね、ちょっと離れて欲しいなっていうのはあるのが、多々あります。その黙っちゃう人は黙っちゃうし、強くこう自分のいろんなね、昔役所だったとかね。そういうのを振りまく人ですよ。うん。だからその辺がなかなか、それが生きてきた人生の証なんだと思うんだけど。だからそういう、あの場所・場所において、それが必要なときもあると思うんだけど。やっぱりこうみんなだね、なんか和気あいあい、とやるときは、そういうのをちょっとどっかに置いてくれるといいなって気もあります。それで成り立ってるところだからね、みんな地域は。

**鹿内**

なんかそういう他の人の話ってその内部の中で結構しますか。あの人またこうだなんて。

**Bさん**

その場ではできなくてもね、ちょっと帰り道とかねとかね。それはちょっとこうよねとかそれぞれの立場でね。考えはあると思うんだけど。なり手が無い役員とかねもあるけど、やっぱりそういう会議のあり方みたいのも、なんていうのはあるんだけど、でもそれをどうしようということ、別にないですけど

**鹿内**

難しいですよ。なんかどうしたらね、そういう自分と合わない人とうまく付き合っていけるんですかね。

**Bさん**

うん。無視するとか言い方は悪いけど、あの人があの人ってに思うことになっちゃうんですよね。結局それが町内の皆さんにとってどうかっていうことで別問題になっちゃうので、本当はいけないと思うんだけど、ちょっとね、難しい

**鹿内**

職場もそんな感じですよ。

**Aさん**

そうですね、もうやっぱり合う人合わない人いますから。でも仕事上付き合わなきゃいけないので、そこは割り切らなきゃいけないです。ね。その個人的な合う合わないっていう感情と。でもそれを深く入ってくる人がいると、いやいやそんなに来ないで！というのはあるのでその難しさはありますけれども、やっぱりある程度皆さんさっき別の顔っていうのがありましたけど、職場で見せる顔って、一定程度、抑えが利いてると思うので、よほどのことがなければそんなに深みにはまることはないんですけど、ちょっとこじれ出すとやっぱり学校ぼくなっちゃうときってやっぱ大人の世界でもあります。

**鹿内**

どうしてこういうお話をしているかという、私のこの卒研の目的の一つに、私が今後人生の上でどうしたらうまく人と付き合っていけるかみたいな目的の一つがあって

(笑) ちょっと教を乞いながら。

Cさんとかは(就職して)2年目ですよ。どうですか、人との接し方。

**Cさん**

それはさっき言ったみたく、ハラスメントじゃないけど、距離感が、やっぱりお互い探り探りになっちゃうからちょっと難しいなっていうのは結構感じて、私は社会人2年目で、転職して2社目なんですけど、1社目は、結構その上のおじさんたちって

うか、これは聞いたらハラスメントかな？みたいなのを気にしながら、話しかけてくれる。こっちからもなかなかそういう話はしにくいっていうのがあって、何か仲良くなるのが、それこそちょっと難しいなって。同年代の子だと、やっぱりほとんど同期だし、話しやすいからすぐパーって仲良くなれるけど、やっぱりおじさんたちとはなかなか難しかったです。コロナで、それこそ仕事以外の場所で会う機会がほとんどなく、ていうのはあるのかなと思いつつ。

### 鹿内

どうしたらいいんですかね上の世代の人たちとか、その年代、今結構バラバラに集まっていたいて、本当にありがたいんですけど、その方々ところ今すごくハラスメントが厳しくなっている中で、こうやっぱり共通の話題的な感じで広げていくと思うんですけど、話して、それは何かどんな話ししますか。

### Aさん

どうでしょうね。あんまり意識してないですね。意識しすぎないように、してるかな。あの、そんなに友達になる必要もないと思ってるんです。職場の人間関係なので。ただ、職場での仕事を進める上で、絶対これは伝えなきゃいけないとか、そういうのがスムーズにお互い伝え合えるような関係にはなりたいと思っていて、上下の関係だったり横の関係だったりいろいろあると思うんですけど、それが普段の会話の中でやり取りしにくいなって思われたいようにはしたいなとは思っています。うん。それぐらいであとは普通に興味ある会話だったら入っていくし、これは入らない方がいいっていうのは入りませんし、そのあたりは手探りで、いろんなタイプの人いますからね。構ってほしい人もいれば、全く構って欲しくない人もいるので、その辺もトライして、この人はこれぐらいじゃないと駄目なんだとか、あまり関わり深めない方がいいんだっていうのは、やり取りしながらです。でもそれも、聞いてみないとわかんなかったりするんで、失敗したなと思ったらごめんねって言えればいいかなと僕は思ってます。それが正解かどうかも全く分かりませんがね。

### 鹿内

なんかDさんとかは結構いろんなところで、いろんな人と関わると思うけど、どういふふう距離を詰めるというか。

### Dさん

私はもう基本距離を詰めない。全員に対して0で接する。でもその中にプラス1にもプラス2もなる人がいたら、もちろん仲良くなるけど、もう基本例えば職場の人とかって、もう0。関心もないし、興味もない。石垣島でホテルの洗い場をやったとき、3ヶ月やったときは、一緒に働いてるおじいさんが、なんか結構もう起伏の激しい人で、もう怒ったらものには当たるし、怒鳴るしみたいなの。そういう人だったけど、そういう人もやっぱり0で、0の感情でないとしんどいから、だからもうそういう人のことは無視する。でも一緒に働いてるすごい優しいおばあさんがいて、その人とは仲良くなったけど。そのときに何かDちゃんは本当に全然悪口とか言わないねって言われたけど、私からした

ら悪口言う時間をもったいないっていうか、その分楽しいこと考えた方が多分自分楽しいから、だからもう、自分が仲良くなりたいたいと思った人だけ仲良くすればいいし、もう何を考えるときも、人間関係も楽しいかどうかだけで判断する。もうシンプルに。そうしたら割とうまくいくっていうか、やっていけるなっていう感じはある。

#### 鹿内

逆にそれを選べない環境にいたときはどうする？

#### Dさん

それはもう逃げる。そこは潔くてもいいのかなって思っちゃう。もうちょっとでも我慢して、ちょっと我慢するぐらいはしてみてもいいかなと思うけど、もう合わないんだったらもう別にすぐやめていいんじゃないかって思っちゃうかな。

#### 鹿内

なんかさっきこの人だって受け入れるみたいな話がBさんからあったと思うんですけど、何か私は地元の小学校中学校が小学校から中学校までの9年間、16人でずっと同じクラスなんです。あの子たち（映画の登場人物）みたいな感じなんですけど。その中には、なんかさっき登場したアカゲラ町の子達が全員私の幼なじみをもうぐちゃぐちゃにモデルにした子たちなんですけど。なんだっけ。「それもつばめがさ」みたいな、いちいちちょっと余計なこと言うてくる女の子がいたんですけど、あの子に似たような子とはあまり合わなくて、でも9年間是一緒にいなきゃいけないし、切りたいのに切れない。腐れ縁みたいな。感じだったので、なんかその。逃げればいいのか、環境を変えればいいのかっていうのは、なんかすごい外の人の考え方だなって思った。

#### Dさん

でもそれはそうじゃない。結局自分の問題だし、と私は思ってしまう。

#### 鹿内

確かに…。（そう）思いますか。

#### Cさん

確かにそれこそ、小学校中学校くらいまでは昔からのずぶずぶな関係みたいなところからはまあ抜けだせはしないっていうのは、あるなって思います。何かよく絶交とか、そういうのはあるけど、やっぱり見えない距離に置くことはできない。ていうのはあるし。そういう人と、やっぱり話したくなくても、絶対に話さなきゃいけない場面が結構ある。

#### 鹿内

職場だと、それを割り切って、必要最低限付き合うっていう感じだけど、狭いとこだと、見て見ぬふりはできないっていう感じですよ。